



津山工業高等専門学校
地域共同テクノセンター

目次

地域共同テクノセンター長あいさつ	1
新任教員紹介	
西山 智也 総合理工学科（機械システム系）	2
花田 七星 総合理工学科（情報システム系）	3
研究紹介・研究室紹介	
廣木 一 亮 総合理工学科（先進科学系）	4
西川弘太郎 総合理工学科（機械システム系）	5
嶋田 賢男 総合理工学科（電気電子システム系）	6
畑 良知 総合理工学科（情報システム系）	7
事業報告	
(1) 津山市 I o T ラボイベント	8
(2) つやまロボットコンテスト国際大会	9
本校が保有している主な機器	10
金属 3D プリンターの紹介	11
3D スキャナ型 3 次元測定器の紹介	12
令和 7 年度地域共同テクノセンター活動状況報告	
(1) 共同研究	13
(2) 受託研究	14
(3) 受託事業	14
(4) 科研費	14
(5) 助成金・寄附金	15
(6) 研究助成	17
(7) 補助金	17
(8) 技術相談・機器利用	17
(9) 公開講座	18
令和 7 年度津山高専技術交流プラザ事業報告	20
資 料	
地域共同テクノセンター規程	25
地域共同テクノセンター利用要項	26
別紙様式 1 テクノセンター利用申請書	27
別紙様式 2 テクノセンター利用報告書	28
別紙様式 3 施設・設備利用簿	29
地域共同テクノセンター利用料算定基準	30
津山高専技術交流プラザ会員企業の地域共同テクノセンターの利用について	31



ごあいさつ

地域共同テクノセンター長

機械システム系 教授 井上 浩行

新型コロナウイルス感染症の5類移行から数年が経過し、社会経済活動はかつての活気を取り戻すとともに、デジタル技術の活用など新たな形態での交流が定着いたしました。この間、皆様から賜りました多大なるご理解とご協力により、教育・研究活動を継続できましたことに、深く感謝申し上げます。

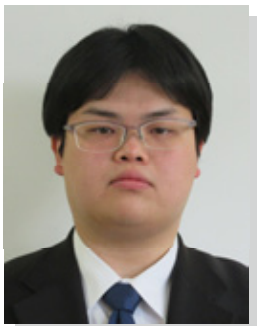
津山高専は、県北地域における唯一の工学系の高等教育機関であり、実践的な教育、研究ならびに地域社会への貢献も重要な役割です。津山高専地域共同テクノセンターは、地域社会と高専を繋ぐ窓口であるとともに、県北地域における産学官連携拠点として、地域経済の活性化に努めてまいりました。

本センターの活動内容としては、大きく二つ挙げることができます。一つは地域企業との連携であり、もう一つは地域の小中学校などの教育機関との連携です。地域企業との連携としては、企業の抱える課題に対して技術相談、受託研究、共同研究、企業への出前授業などを行っています。これらの活動を通して、地域企業の生の声に耳を傾け、本校教員と一緒に考え、その解決を行います。また、小中学校などの教育機関との連携としては、児童・生徒を対象とした公開講座や夏休み科学教室などの活動を行っています。これらの活動は、小中学生に科学の面白さや自然の奥深さを体験してもらうような内容で、親子で楽しめるように工夫しているものもあります。

津山高専ではこれまで以上に地域の皆様とのつながりを大切にし、次に挙げる目的に沿って地域貢献に努めてまいります。

- ・津山高専技術交流プラザをはじめとする産学連携事業等に積極的に取り組み、地域における産学官連携を推進するとともに、その成果を広く社会に発信する。
- ・地域のものづくり教育拠点や次世代の人材育成機関としての役割を果たすため、企業向け出前講座や小中学生向けの公開講座および出前授業を充実する。
- ・小中学生の理数系学習やIT技術への興味喚起を促進するため、知識の習得、活用、探究心を育む支援活動を推進する。
- ・地域自治体等の各種委員として地域に貢献する。

現在、日本社会は深刻な人口減少と少子高齢化に直面しており、労働力の確保や市場の維持が課題となっています。特に企業においては、DXによる生産性の向上やGXへの対応といった構造的な変革が求められています。津山高専地域共同テクノセンターには、地域社会との連携を強化し、地域経済の活性化や地域課題の解決に貢献することが求められています。そのためには、これらの課題を克服し、地方企業の持続的な成長と発展を支援するために企業が持つ地域資源や特性を活かし、地域経済の活性化や地域社会の発展に向けて取り組むことが重要であると考えております。引き続き、津山高専の設備、人材、ネットワークを活用することで教育研究機能の向上と地域経済の活性化の推進のために、ご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



新任教員紹介

総合理工学科（機械システム系） 助教 西山 智也

1. 自己紹介

令和8年度に総合理工学科機械システム系に着任しました西山智也と申します。出身は岡山県の和気町です。進学先も岡山高校、岡山理科大学と県南で過ごし、この度初めて県北に足を踏み入れました。

大学院では、多足類の歩容のメカニズムを構成論的に明らかにすることを目的として研究を行ってきました。具体的には、ムカデやゲジといった脚の多い生物の運動を観察し、その動きを再現可能なロボットを開発するとともに、挙動を解析することで、生物の移動メカニズムを間接的に解明することを目指しています。

本高専との関わりにつきましては、これまで直接のご縁はなかったものの、振り返ると不思議なつながりがあったことに気づかされます。私自身の出身校ではありませんが、弟が現在在籍しているほか、恩師の最初の就職先でもあります。また、高校三年生の冬には、のちに本高専で勤務される方と同じ校舎で過ごす機会もありました。世間は広いようで狭いものだと感じております。

OBでもなく、初めての就職ということもあり、まだ至らぬ点も多くあるかと思いますが、日々学びながら努めてまいります。

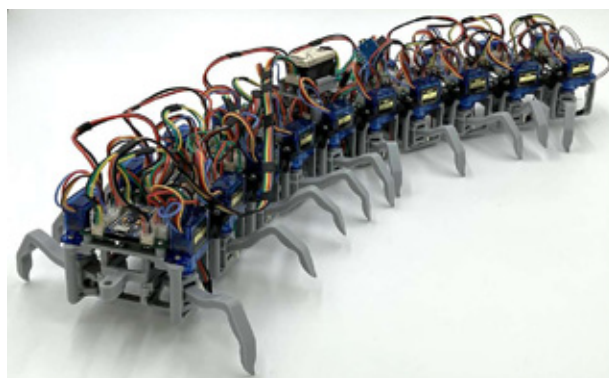
2. 研究について

私の研究の根底には、「効率よく移動できるロボットを開発したい」という目標があります。このようなロボットは、災害現場や未知環境、さらには惑星探査といった場面での応用が期待されます。

本研究では、長い進化の過程を経て環境に適応してきた生物の移動メカニズムに着目しています。特にムカデやゲジといった多足類の生物は、多数の脚を協調的に動かすことで滑らかに移動できるだけでなく、一部の脚に不具合が生じても移動を継続できるロバスト性を有しており、多脚ロボットの制御において重要な知見を与えると考えられます。こうした観点から、構成論的手法に基づいて、多足類に見られる歩容生成メカニズムの解明を目指し、研究を進めています。

これまでの研究では、ムカデの観察において環境に応じて歩容が変化することを確認しており、このような適応的な歩容変化が移動効率に与える影響に着目しています。

そこで、この歩容変化のメカニズムおよび機能的な意味を解明・検証するため、新たに多足類型ロボットCentiPLAY-Pを開発し、実機を用いた実験および解析を行ってきました。



開発した多足類型ロボットCentiPLAY-P

本ロボットは多数の脚を有しており、多足類に見られる様々な歩容を再現可能です。これを用いることで、生物では直接操作することが難しい歩容パラメータ（例えば、脚の振動周期や接地タイミング、位相関係など）を任意に制御し、それらが移動性能に与える影響を体系的に検討することが可能となります。

今後の研究では、実機および動力学モデルに基づく数値シミュレーションの両面から、生体の歩容変化が移動効率に与える影響を検証していきます。また、歩容変化がどのように創発されるのかという歩容生成メカニズムの解明に取り組み、将来的には様々な環境において自律移動可能な多脚ロボットの開発を目指します。これにより、環境に応じて歩容を適応的に変化させることで、不整地においても高い移動能力を持つロボットの実現が期待されます。

3. おわりに

今回、津山高専からご縁をいただき、教育・研究に携わる機会をいただけたことを大変ありがたく思っております。

今後は学生の皆さんと共に考え、試行錯誤しながら教育・研究に取り組んでいきたいと考えております。至らない点も多々あるかと存じますが、本校の一員として貢献できるよう努めてまいります。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。



新任教員紹介

総合理工学科（情報システム系） 講師 花田 七星

1. 自己紹介

初めまして。情報システム系に着任しました花田七星と申します。私はアメリカで学士から政治学の博士号（Ph.D.）を取得するまで、そしてその後を含めて、モンタナ州、オハイオ州、ミネソタ州という北部の自然豊かな田舎州3州で長年暮らしてきました。博士課程では主に「地域活動やボランティア活動への参加が、人々の政治参加へといかにつながっていくのか（パイプ）」、そして「それが個人の自己効力感や政治的効力感（社会に働きかけ、社会を変えることができるという自信）の形成にどのように作用するのか」を探究してまいりました。帰国後は、この「社会と関わることで個人の効力感が高まる」という政治学の視点を教育現場に応用したいと考え、英語教育および実践的なコミュニケーション指導の道へと進みました。

津山に来て驚いたことは、ミネソタ州と似た景色がたくさんあることです。ミネソタ州では、何もない道を週末はひたすらドライブしたものです。その時の感情が思い起こされ、これからの生活にワクワクしているところ です。

2. 「自分是可以る」と思える仕組みづくりと伴走する教育

教育において私が最も大切にしているのは、上から教えるのではなく「一緒に学ぶ」姿勢であり、学生が「自分是可以る」「学ぶのは楽しい」と感じられる環境を提供することです。前任校では、授業外でも学生が自主的に英語を学べる施設「English Learning Center（ELC）」を立ち上げ、年間延べ2万5千人が利用する環境へと発展させました。この施設の真の目的は、単なる自習場所の提供ではなく、講師と学生が並走し、学生同士もピアサポートで教え合いながら失敗を恐れずに挑戦できる「安心できる居場所」を作ることでした。例えば、英語が全くできない初級レベルの学生とも二人三脚で伴走し、スライド作成から論理展開、発表技法までを体系的に指導して、6分間の英語プレゼンテーション大会の本選という大舞台へと導いた経験は私の教育の原点です。また、大学編入を目指す学生には、自分の興味ある研究を英語で発信し質疑応答する力を指導してきました。最初は怖く感じるかもしれませんが、自分の言葉で相手に伝えられたときの嬉しさは表現できません。私はこうした「伴走」を通じて、学生の自己肯定感を育む仕組みづくりに注力してきました。

3. 英語と工学をつなぐ地域連携と実践

語学は教室の中だけで完結するものではなく、実際の社会で使ってこそ真の価値を発揮します。そこで私は、学生が学んだ英語を地域社会の課題解決に直接活かす、実践的な地域連携プロジェクトを推進してきました。具体的には、地元製造業の海外向けホームページの翻訳や、飲食店の英語メニュー作成、博物館での外国人観光客向け英語ボランティアガイド育成などを学生と協働で実践しました。英語は技術者が世界の研究者と共有する「共通言語」です。津山高専の学生たちが持つ高度な「工学の専門知識」と「英語力」をつなげ、地域から世界へと自らの技術やアイデアを発信できるようになれば、学生の将来の選択肢は大きく広がります。実社会での実践と貢献の経験は、学生たちに「自分の力が社会で役に立った」という強い達成感を与え、自己効力感を飛躍的に高める原動力となります。

4. これからの研究と津山高専での展望

今後の研究・教育活動では、生成AIの音声機能等を利用した自立型教材の研究や企業へのニーズ調査に基づいた実践的な企業連携英語カリキュラムの開発に取り組みたいと考えています。また、日本の学生と海外の学生が共同で行うオンラインプロジェクトなど、異文化理解を深める新しい教育手法も、今後ぜひ津山高専で実践してみたい目標の一つです。これまでのELC運営で得た知見をもとに、津山高専でも「安心して学べる」「挑戦できる」学習空間を構築し、自己肯定感を育む支援を行いたいと考えています。さらに、理工系学生が自分自身の興味ある研究を英語で対外的に世界へ向けて発表するためのワークショップやプレゼンテーション大会なども、積極的に企画・運営していきたいと願っています。

5. おわりに

私が学生たちに掲げる「自分是可以る」「学ぶのは楽しい」という目標は、私自身も日々実践していきたい目標です。学生の皆さんや地域の皆様と同じように、私自身も毎日「挑戦できる」「自分是可以る」、そして「楽しい!」と思えるよう、日常の中にある小さな幸せを見つけながら、この津山の地でゆっくりと歩んでいきたいと思っています。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

研究紹介・研究室紹介

廣木研究室の紹介

総合理工学科（先進科学系）教授 廣木 一 亮

1. 化学に関することなら何でも

たった一人の化学教員として赴任して早15年、すべてが様変わりしたように思う。最初は一般科目の教員で卒研究生を持たなかったが、総合理工学科先進科学系への改組を経て、研究室に卒研究生を迎え、日々教育研究に励んでいる。

「有機化学、化学に関することは何でも」というのが、廣木研究室の研究スタンスである。もちろん何かの一分野に集中するというのが一般的な研究者の姿勢かもしれないが、私の場合、その時々興味があるテーマに取り組むというのが面白い。そのせいか、ちょっとした「駆け込み寺」のようになってしまい、研究開発で窮した大学の先生や企業の技術者が良く訪れる。そして研究テーマは企業との共同研究が多く、学生も何に役立つか、成果の応用が分かりやすいので、研究の励みになっているようだ。小難しい研究でない分、理解が容易で、高専向きの研究が多いとも感じている。

2. 化学教育への挑戦状！

もう一つの研究は「化学教育」である。私はむしろこの世界で知られることが多くなった。初等中等から高等教育、生涯学習にいたるまで、もはや陳腐化した記憶重視の詰め込み教育からの脱却を目指す。今どき、情報はスマホで手に入る。要はそこから正しい情報を精査して選択し、さらにそれを用いて正しく考える術を身につけられてこそ、価値ある教育ではあるまいか？特にその考えは実験実習について顕著であり、テキストどおり言われるがままであればOK、ではない！ある操作を行うならその理由を説明できなくてはならない。それゆえ、実験前のノートチェックは徹底的で、口頭試問で泣きを見た学生は数えきれない。こだわっているのは「実験を作業にしないこと」、常に考えながら動くことを要求する。このことは安全という観点からも極めて重要なのだ。

3. 津山発！害獣対策最前線

クマ、シカ、イノシシ、昨今、野生動物が人間の耕作圏・居住圏に現れ、食害をはじめ、様々な問題を引き起こしている。なかには北海道の福島町で人が襲われて命を落とすような痛ましい事件もあり、事態は抜き差しならぬ状態にあると言っていいだろう。

解決すべき課題は山積しているが、その中の一つが害獣処理の問題。あまり表面化していないが、駆除された害獣が適正に処理されず、山中放置されるケースがあるという。あるいは浅く埋めた状態で放置されたりするそ

うだが、これだと別の動物が食べてしまって、より害獣被害を複雑化させてしまい、ますます解決に困難をきたす。そこで津山市のBOD商会在が手掛けるのが、微生物を用いた害獣処理装置。なんと1週間もあればどんな害獣も跡形もなく処理できるという。骨までなくなるという驚異の装置だが、なぜ処理できるのか、科学的には全く分からない。そこで物質という視点から私が、運よく先進科学系に赴任してきた高温菌を扱える教員が生物学的な視点から、この謎に挑もうと奮闘している。

4. うまくいかない、サーモクロミズム

画期的な農業用シートがある。暑い夏は白くなって光と熱を反射し、寒い冬は黒くなって光と熱を吸収する。これによってシートに囲まれた農業用ハウスの温度が夏は上がり過ぎず、冬は下がり過ぎないという訳だ。季節によってシートを交換する手間やコストを削減できるのが大きなメリットで、ブルーシートで知られる萩原工業から発売されている。しかし問題点もある。熱によって分子構造が変化して色が変わる現象をサーモクロミズムと呼ぶが、こうした性質をもつ物質は光によっても構造が変わりやすくフォトクロミズムも起こしやすい。そこで光によるサーモクロミズム材料の劣化を防いで欲しいというので、共同研究に取り組んでいる。

5. 最新の卓上NMR装置を学生実験に

核磁気共鳴（NMR）装置をご存じだろうか？医療用MRIの方が有名であろうが、有機化学でも欠くことのできない装置で分子構造が特定できる。従来、この装置はお寺の釣り鐘ほども大きくて、数億円という高額な装置であったが、近年、卓上型NMR装置が開発され、コンパクトで価格も1/10になった。そこで先進科学系はこの装置をいち早く購入。昨年度からこの最新装置を組み込んだ学生化学実験の開発に着手した。その結果、大学と比べても先進的な実験プログラムの開発に成功。今季、学会発表するとともに、業界紙から執筆依頼を受けており、来年度から実際に学生が行う化学実験に導入予定である。

6. まとめ

以上のように廣木研究室では化学に関する多様なテーマに取り組んでおり、いずれも社会や教育に役立つものが多い。皆さんも化学の「なぜ」に行き当たったら、一度、問い合わせてみてはいかがだろうか。

西川研究室の紹介

総合理工学科（機械システム系）准教授 西川弘太郎

1. はじめに

当研究室では、空気圧を利用した人間支援型ロボットの開発研究を行っている。空気圧を導入するメリットは「軽い」・「安い」・「柔らかない」である。具体的には空気圧アクチュエータは電動アクチュエータと比較して、軽量のため人間への負担が少ない、単純構造のため安価、そして空気の圧縮性を利用することにより、コンプライアンス制御なしに本質的に柔軟性を与えることが可能である。したがって当研究室では人間支援型ロボットへの親和性が高い空気圧を採用している。しかしながら、空気圧システムにはデメリットもある。空気圧システムを駆動する外部動力源（コンプレッサ）やバルブ、電気エネルギーが必須なことである。これらの存在は、一般的な据え置き型の用途であれば問題にはならないが、人間支援型ロボットには取り付けられるスペースはない。そこで当研究室では、人間の運動を利用した「無動力システム」にてこの問題を解決している。本稿では、ロボット義肢（義手および義指）について紹介する。

2. 無動力型空気式義手

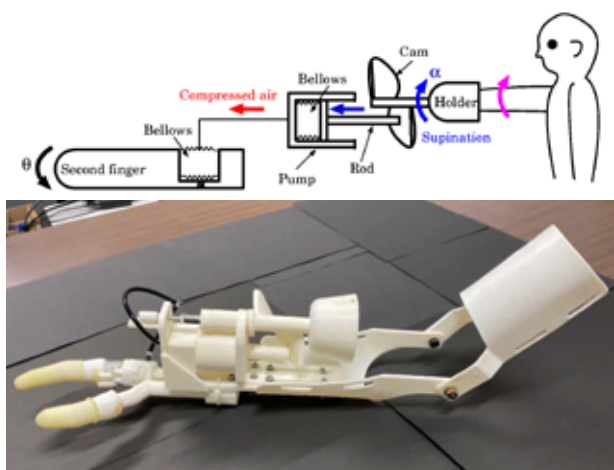


図1 無動力型空気式義手の動作原理¹⁾

動作原理を図1に示す。本義手は空気圧でありながら、先に述べた外部動力源や電気エネルギーなしでの駆動が可能である。同図より、使用者の前腕断端の回外/回内動作を利用して、内蔵のポンプを圧縮し、圧縮空気を生成する。生成された圧縮空気はチューブを介して、指関節にある、ソフトアクチュエータのベローズへ送られ、指関節が屈曲する。軽量・安価であり、柔軟物を変形させず、ペットボトルはしっかりと把持することが可能である。

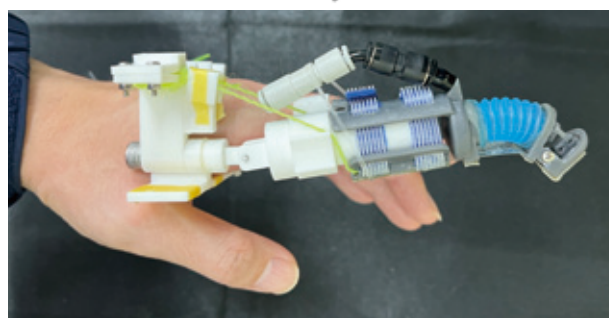
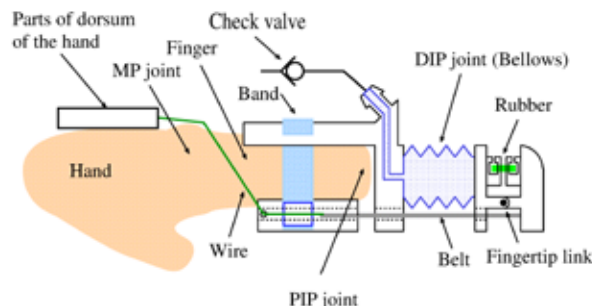


図2 無動力型空気式義指の動作原理¹⁾²⁾

3. 無動力型空気式義指

動作原理を図2に示す。本義指は、使用者の残存指の屈曲動作を利用し駆動する。図1とは異なり、予め空気を封入した、ばね・ダンパ特性を有するベローズを組み込んでいる。指切断者を被験者とした把持実験では、この受動関節の効果により、ポテトチップを割ることのない柔軟な把持が確認された。

4. おわりに

本稿では、無動力型空気式義肢について紹介した。さらなる軽量化と把持性能向上を目指し、研究室所属学生らと日々研究開発に取り組んでいる。このほか、リアルタイム制御システムやI/Oボードの開発等も行っている。当研究室の見学をご希望の方、ロボット技術でお困りの方は本校までお問合せください。

参考文献

- 1) 西川弘太郎：空気圧を使用した形態学的計算による無動力義肢の開発、計測と制御、Vol.64, No.5, pp.331-334 (2025)
- 2) K.Nishikawa, K.Hirata, and M.Takaiwa: Development of Self-Powered Prosthetic Finger with Pneumatic Passive Joints for Distal Interphalangeal Joint Amputees, Journal of Robotics and Mechatronics Vol.36, No.5, pp.1221-1234 (2024)

嶋田研究室の紹介

総合理工学科（電気電子システム系）准教授 嶋田 賢 男

1. はじめに

嶋田研究室では、照明について研究を行っております。照明の光源としては、発光効率、視認性が良いことからほとんどの照明機器が発光ダイオード（LED）となっており、LED照明は一定方向に光が集中するため、眩しさを感じやすいといった欠点もございます。一方、光色によって様々な視覚及び心理・生理的影響をもたらすことも報告されており、同じ白色光であっても、青色発光に黄色蛍光体による方式、光の三原色の混色による方式の違いによっても、人間が感じる明るさに違いが生じるといった報告もございます。このようなことから、その場所や場面ごとに最適な照明環境を構築する必要があります。私たちの研究室では、いろいろな場所に適した照明はどんなものなのかの検討を行い、実際に照明を作製し評価を行っております。ここでは、夜間景観用照明として発光色などについて調査、検討を行った内容について紹介させていただきます。

2. 景観における照明について

経済や地域の活性化などのため良好な景観形成を促進する目的で景観法が制定されました。この景観法に基づき市町村はそれぞれ景観形成基準を定めております。ただし、多くの市町村の景観形成基準では、建物の高さや色彩などについては具体的な記述があるのですが、照明については具体的な記述がなく、夜間景観については、「落ち着いたある夜間景観の創出に努めること」という記述にとどまっており、検討が不十分な状態にあると判断いたしました。そこで、夜間景観形成における照明の効果を検証し、良好な景観形成のためにはどのような照明が良いか検討を行いました。夜間景観を形成するシンボルとして、図1に示す校舎敷地内の樹木を選びました。図2は、照明色を赤色としたときの写真です。そのほかの照明色についても写真を撮影し、さまざまな方々に写真を見ていただき、照明色によってどのような効果が得られるのか調査検討を行いました。

3. まとめ

このように、嶋田研究室ではおもにLED照明における、場所、場面における最適な照明の検討を実機により

検証を行っております。また、図3に示すように照明だけでなく、照明を簡便に制御できるような制御機器の開発も併せて行っております。少しでも興味を持っていたら幸いです。



図1 校舎敷地内樹木



図2 夜間照明の例(赤色)

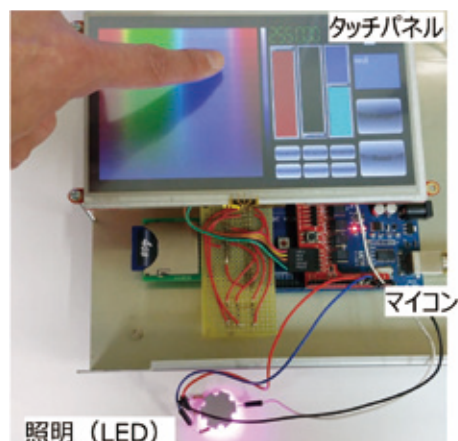


図3 照明制御機器

1. はじめに

単体で見れば単純な振る舞いも、それらが複数集まり関係しあうことで複雑な様相となる現象は世の中にあふれています。例えば、車の移動が関係しあうことで引き起こされる渋滞現象や魚の固有の動きが関係しあうことで現れる魚の群れなどが有名です。こうした個々の部分的な相互作用が全体の様態を構成することで予測が難しい複雑な現象を生み出すことを創発と呼びます。

本研究室ではこうした創発される現象に注目し、特に人間が持つ知的と思われる振る舞いが集まることによって生み出される構造や活動について、創発の観点から、数理モデルやシミュレーションなどで再現することで理解・検証することを行っています。本稿では最近行っている研究の一例をご説明いたします。

2. 避難行動シミュレーション

人間の移動行為は社会活動において大部分を占めているといってもよいのではないのでしょうか。人が何をすることにも移動が伴います。ただ、車の渋滞からもわかるように人間の移動行為は渋滞を引き起こしがちです。もし、こうした渋滞を抑えることができる規則または条件が明らかになれば、渋滞を起こしたくない状況、たとえば災害発生時の避難などにおいて役立てることができそうです。既に様々な研究にて、避難環境における障害物のレイアウトが、特定の条件下においては避難完了時間短縮に有効であることが分かっています。ただし、それらは離散的な数理モデルでの証明・検証が主であり、連続時間の物理シミュレーションをベースとした手法での再現や学校環境（特に津山高専などの校舎構造など）の特定条件においてはまだなされていませんでした。本研究室では卒業研究として、津山高専での教室および校舎シミュレーションを行いました（図1）。その結果、実際に同様の現象が物理モデルにおいても起こり、また津山高専内においても再現できる可能性があることを示すことができました。

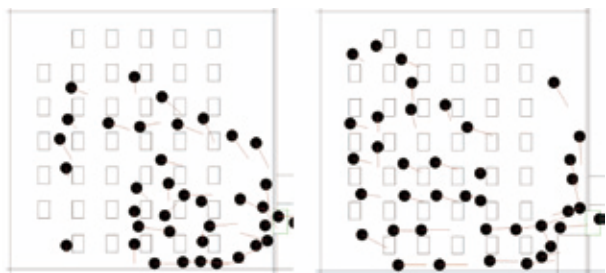


図1 教室内避難シミュレーション(右：障害物あり)

また、こうしたシミュレーションは事前の避難計画にも活用できます。実際の避難訓練を実施するには準備や実施の時間やそれを計画立案するコストが大きいいため、改善点を反映させ繰り返し実施することはなかなか難しいです。しかしこうした状況では想定される条件でシミュレーションを行い仮想的な避難行動を再現することでより良い計画を見つけることが可能になります。本研究室ではユーザがどんな場所でもオンラインで利用できる避難行動シミュレータ（図2）を開発しています。



図2 開発したオンライン避難行動シミュレータ

3. 社会のシミュレーション

社会は人や会社などによる自身の利益を追求する活動が集まることで構成されています。しかし現実には自身の利益を度外視した助け合いをする個体が少なくありません。こうした助け合いはどのような条件で生まれるのか、本研究室ではシミュレーションを通して検証する研究（図3）を行っています。

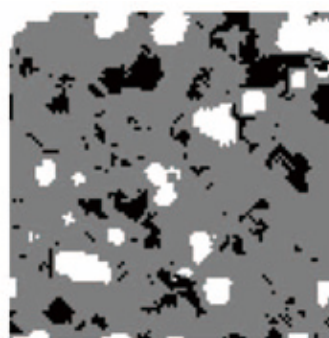


図3 合理的でない意思決定を一定数が行う場合の協調・非協調の広がり例(白：協調者、黒：非協調者)

参考文献

- D. Yanagisawa, et.al, Introduction of frictional and turning function for pedestrian outflow with an obstacle. Phys. Rev. E, 80(3), 036110. (2009)

津山市IoTラボイベント

「津山工業高等専門学校学生による地域課題解決アイデアコンテスト」

9月30日（火）に、本校の学生が地域課題解決のアイデアを競うアイデアコンテストが開催されました。

学生、教職員、地元企業から多くの聴講があり、「交通」「モビリティ」などの地域課題を津山市で導入予定となっている自動運転バスを利用した解決案や、AIなど最先端の技術を用いた解決案など参加学生の斬新なアイデアに審査員・聴講者の方々は聞き入っていました。



つやまロボットコンテスト国際大会

12月14日（日）に津山総合体育館で開催された「第30回つやまロボットコンテスト」にロボット技術研究部から5チームが出場しました。

今年の競技テーマは、「拾って投げろ！玉入れロボコン」で、4チーム同時に競技を行い、どのチームがより早く多くの玉をかごに入れることができるかを競います。また、ロボットの重量が一番軽いチームが有利になるつやまロボコンオリジナルルールもあり、ロボットの設計、玉の拾い方のメカニズム、戦略などが問われます。ロボット技術研究部では、11月に部内でつやまロボコン出場チームを決める部内予選を開催し、その予選を勝ち抜いた5チームで大会に臨みました。

ピタゴラススイッチのような機構で玉を拾い投げる「MDFは甘え」、ダイナミックな動きが魅力の「スプリングワッシャーズ」など各チームともに、それぞれのアイデアやこだわりを詰め込んだロボットで競技を行いました。2回の予選を経て、安定した機構で着実に得点を重ねることができる「ダークネスα」、ダイナミックな射出機構が魅力の「ぼぼちゃんず」、滑らかな足回りと力強い投てきの「オーバースロー」の3チームが準決勝進出を決めました。結果、「ダークネスα」が決勝戦に進出し、安定して玉を拾い、かごに入れて得点を重ね、準優勝となりました。また、1年生のみで構成された「オーバースロー」が津山ロータリークラブ賞を受賞しました。



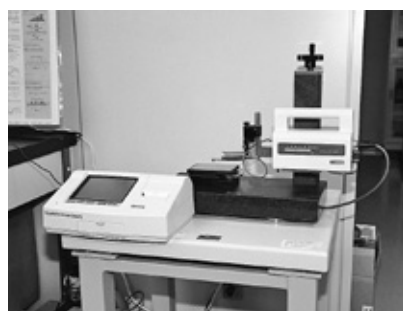
本校が保有している主な機器

| 地 | 域 | 共 | 同 | テ | ク | ノ | セ | ン | タ | ー | 内 |

計測解析室1



精密万能試験機



表面粗さ測定器



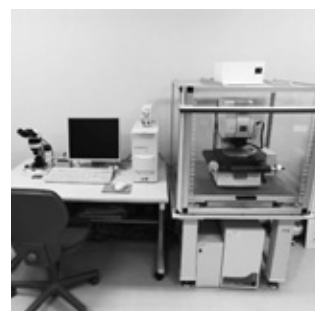
マイクロビッカース硬度計



ロックウェル硬度計



自動精密切断機などの
試料作製装置



ナノサーチ顕微鏡

X線・電顕室



透過型電子顕微鏡

3D関係機器



3Dスキャナ型3次元測定器

金属3Dプリンター(Lasermeister 100A)の紹介

令和5年12月に金属3Dプリンター(Lasermeister 100A:ニコン)が導入されました。この装置の特徴は、ワーク上にレーザー光を集光して微細なメルト・プール(溶解池)を形成し、そこに金属粉体を供給して溶解堆積させることによって積層造形を行う「LMD(Laser Metal Deposition)方式」を採用しています。金属粉体を用いるため、造形後の加工や仕上げ処理が行いやすく、また歪みの少ない造形物を作成することが可能です。今回導入した装置はステンレス(SUS)を素材に造形が可能で、その強度もステンレスとほぼ同等となります。

以下メーカーホームページからの抜粋

(<https://ngpd.nikon.com/product/laser-processing-machine/lasermeister100a.html>)

ニコンのLasermeister 100Aシリーズは、計測と造形を融合した金属3Dプリンターです。造形、肉盛りといった金属3Dプリンターの要素から、マーキング、接合まで、レーザーによるさまざまな金属加工を高精度かつ容易に実現します。



3Dスキャナ型3次元測定器(VL-700)の紹介

令和5年12月に3Dスキャナ型3次元測定器（VL-700：KEYENCE）が導入されました。

この装置の特徴は、プログラム不要であらゆる形状をスキャンし、CADデータと比較・解析することができます。またスキャンしたデータを自動でCADデータに変換することも可能です。また、形状データだけでなく表面の模様や色を同時にスキャンすることでメタバース空間で利用可能なカラー3Dデータを出力することが可能です。

以下メーカーホームページからの抜粋

(https://www.keyence.co.jp/products/3d-measure/3d-scanner/vl-700/index_pr.jsp)

STEP出力まで一気通貫

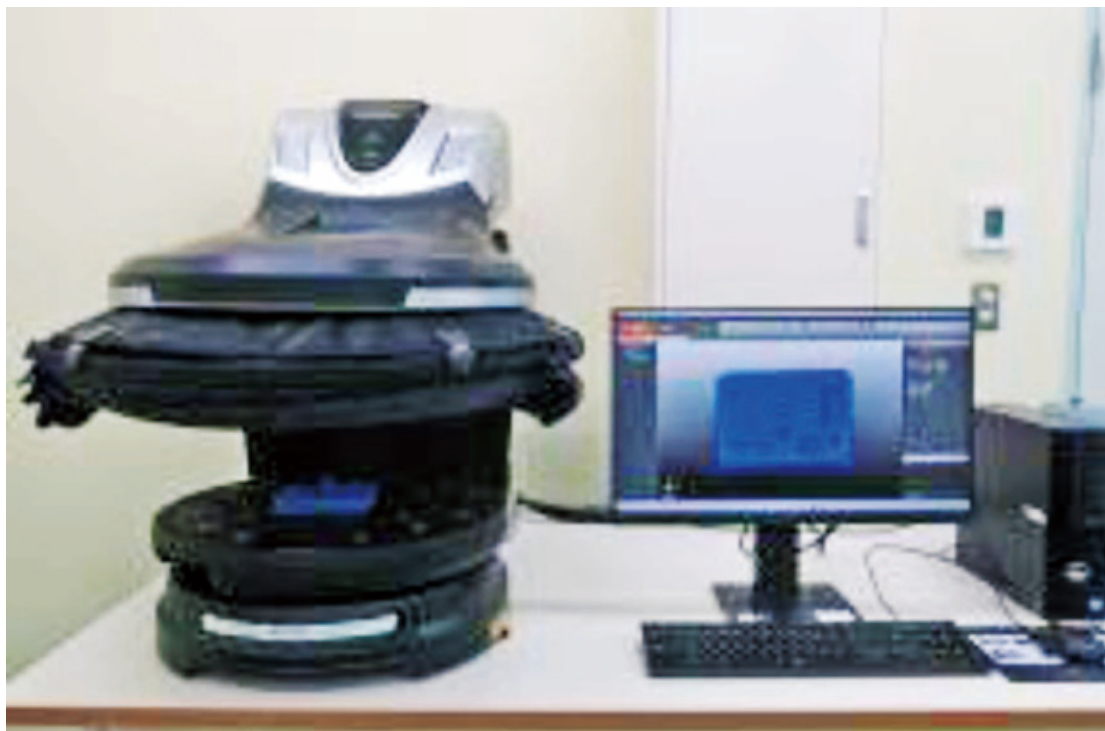
STLだけでなくSTEPファイルでの出力までがワンクリックで可能に。専門性の高いソフトウェアの使い分けが必要なくなります。

解像度従来比2倍

新開発の高解像度受光レンズ、WDR CMOSセンサを搭載。色も形も忠実な3Dデータを取得できます。

今測れないものが測れる

立体形状すべてを数値化することで、あらゆる箇所の測定が可能に。また、図面と比較し設計とのズレを確認できます。



令和7年度 地域共同テクノセンター活動状況報告

共同研究

研究題目	(所属) 研究担当者名	契約相手先	受入金額(円)
温風発生機の省電力化に関する研究	(電気電子システム系) 八木 秀幸	企業	0 (複数年度契約のため、当該年度の受入実績なし)
ホローカソードCVDを用いた有機ポリマー基盤に対する表面SiO _x 薄膜の高速処理及び硬質化	(機械システム系) 半田 祥樹 近本 彬	企業	0 (複数年度契約のため、当該年度の受入実績なし)
ニュートラルネットワークに基づく日報から算出したユーザーエネルギーのリスク判断手法への応用	(情報システム系) 房 冠深	企業	0 (複数年度契約のため、当該年度の受入実績なし)
競技用低燃費車両の開発	(機械システム系) 山口 大造	企業	605,000
太陽光発電所の運転データの分析とそれを用いた故障検出手法の開発	(電気電子システム系) 桶 真一郎	企業	217,800
ミストCVD法によるリビング重合成膜技術の開発及び微細加工基板への局所選択成膜技術の開発	(電気電子システム系) 香取 重尊	企業	909,999
車内無線電力給電によるLED点灯システムの開発	(電気電子システム系) 山本 綱之	企業	990,000
微生物分解型廃棄物処理装置中の微生物の解析	(先進科学系) 粟井 貴子	企業	999,000
センシング技術を搭載した自律走行可能な除草ロボットの開発	(機械システム系) 井上 浩行 (情報システム系) 曾利 仁	企業	300,000
両面受光太陽電池を用いた追尾式太陽光発電システムに最適な追尾制御法の開発	桶 真一郎	長岡技術科学大学 (高専一長岡技科大 共同研究助成)	650,000
メタマテリアル技術を活用した電磁界エネルギー伝送の高効率化及びマイクロ波融雪の高度化に関する研究開発	(電気電子システム系) 山本 綱之	長岡技術科学大学(分担者) (高専一長岡技科大 共同研究助成)	150,000
微生物による生分解性ポリエステル分解の可能性確認	(先進科学系) 廣木 一亮	企業	300,000
ポリマーのインフレーション成形時における空気噴流による冷却特性の評価	(機械システム系) 山田 貴史	企業	390,000
整流回路の開発、および評価	(電気電子システム系) 山本 綱之	企業 函館高専 (3者契約)	260,000
サーモクロミック顔料(ロイコ色素)の耐久性向上	(先進科学系) 廣木 一亮	企業	390,000
合計 15件			6,161,799

2 受託研究

研 究 題 目	(所 属) 研究担当者名	契約相手先	受入金額 (円)
戦略的スマート農業技術の開発・改良	(機械システム系) 井上 浩行	生物系特定産業技術研究支援センター (熊本県立大学)	3,482,000
車載太陽電池モジュールにおける動的 部分影が発電特性に及ぼす影響の解析	(電気電子システム系) 桶 真一郎	企業	455,000
合計 2件			3,937,000

3 受託事業

事 業 名	(所 属) 研究担当者名	契約相手先	受入金額 (円)
次世代科学技術チャレンジプログラム	(情報システム系) 宮下 卓也	国立研究開発法人科学技術 振興機構	10,000,000
合計 1件			10,000,000

4 科研費

課 題 名	(所 属) 教 員 名	交付額(円)	区 分
数理モデルを立て分析する能力を育成する数学教材と授業 法及びカリキュラムの開発	(先進科学系) 松田 修	3,120,000	基盤研究 (B)
量子ホールエッジ状態を用いたトポロジカル準粒子の測定 と統計性	(先進科学系) 久保 敏弘	1,300,000	基盤研究 (C)
過積載太陽光発電システムの火災予防のための部分影を利用 した故障発見法の開発	(電気電子システム系) 桶 真一郎	1,430,000	基盤研究 (C)
生体組織の深部観察を実現する高効率三光子励起・赤外発 光性ナノエマルジョンの開発	(先進科学系) 守友 博紀	1,560,000	基盤研究 (C)
漏洩電磁波抑制と高効率無線電力伝送を可能にするフォー カシングリフレクタの開発	(電気電子システム系) 山本 綱之	910,000	基盤研究 (C)
理工系アカデミックジャパニーズに特有の理解困難な表現 の抽出と体系化	(海外展開促進) 山田 朱美	1,170,000	基盤研究 (C)
光熱効果と界面間相互作用による液面ダイナミクスの解明	(機械システム系) 佐伯 文浩	1,170,000	基盤研究 (C)
非平衡相転移ブートストラップの基礎	(先進科学系) 島田 悠彦	650,000	基盤研究 (C)
空気圧ソフトバルブによる随意制御型ブリードオフ回路を 採用した柔軟把持義手の開発	(機械システム系) 西川 弘太郎	910,000	若手研究
ヴィクトリア朝終焉期以降の『チャイルド・ハロルドの巡 礼』読者とその意図的編集	(電気電子システム系) 山口 裕美	1,170,000	基盤研究 (C)
アウトサイズ粒子群における微細粒子の動態力学：砂礫洲 による陸域物質移動の影響	(先進科学系) 谷口 圭輔	2,210,000	基盤研究 (C)
1960-70年代の日本における「保健」の実践に関する歴史 的研究	(機械システム系) 近藤 雄大	1,690,000	基盤研究 (C)

課 題 名	(所 属) 教 員 名	交付額(円)	区 分
無毒で豊富な元素で構成される新規硫化物熱電素子の簡易で低コストな合成法の開発	(電気電子システム系) 中村 重之	1,690,000	基盤研究 (C)
AIとIoT技術を搭載した協調作業可能な水田除草ロボットの開発	(情報システム系) 曾利 仁	1,690,000	基盤研究 (C)
医歯工連携によって実現されるReady to Useなマウスガードの製作	(機械システム系) 山田 貴史	1,430,000	基盤研究 (C)
高専女子卒業生のキャリア形成の実証研究と5年後のマイルストーン調査	(技術部) 谷口 亜紀子	410,000	奨励研究
高専間・海外協定校連携による「ハイブリット型中国語学習システム」の構築	(招聘教員) 杉山 明	0	基盤研究 (C) 【継続】
流路網再編と岩床浸食のダイナミクス：流域発達過程全容解明への巨・微視的アプローチ	(先進科学系) 谷口 圭輔	260,000	基盤研究 (C)
言語権保障からみた司法通訳制度の実証研究--対ベトナム語話者の捜査通訳を焦点に	(電気電子システム系) 角谷 英則	390,000	基盤研究 (C)
イオンブラシと微粒子の複合ハイブリッド構造を有する超低摩擦摺動システムの創製	(校長) 佐藤 貴哉	130,000	基盤研究 (B)
出水時におけるセシウム137の沿岸海域への輸送・拡散プロセスに関する実証的研究	(先進科学系) 谷口 圭輔	260,000	基盤研究 (C)
高等教育機関における「体育史」授業に関する実践的研究	(機械システム系) 近藤 雄大	390,000	基盤研究 (C)
6000万年間連続する地磁気強度変化の復元に基づく固体地球進化解読	(高度情報専門人育成事業) 中川 貴司	611,650	基盤研究 (B)
合計 23件		24,551,650	

5 助成金・寄附金

寄附の目的	奨励対象等	寄 附 者	受入金額 (円)
寮生の厚生福祉助成金 (寺子屋)	寄宿舍	北辰寮後援会長	250,000
寮生の厚生福祉助成金 (その他)	寄宿舍	北辰寮後援会長	100,000
寮生の厚生福祉助成金 (寮母)	寄宿舍	北辰寮後援会長	1,400,000
関一郎准教授の「環境配慮した金属チタン生産技術の確立」に対する研究助成	(機械システム系) 関 一郎	公益財団法人高橋産業経済研究財団	2,400,000
近本彬助教の「大気圧プラズマジェットを用いたポリマー表面の結晶化度の制御」に対する研究助成	(機械システム系) 近本 彬	公益財団法人高橋産業経済研究財団	2,300,000
柴田典人教授の「1細胞で理解する無性生殖と有性生殖を支える全能性の違い」の研究のため	(先進科学系) 柴田 典人	公益財団法人ウエスコ学術振興財団	700,000
前澤孝信教授の「無性生殖による多様性創出メカニズムの解明」の研究のため	(先進科学系) 前澤 孝信	公益財団法人ウエスコ学術振興財団	700,000

寄附の目的	奨励対象等	寄 附 者	受入金額（円）
関一郎准教授の「合金組成の最適化による濃度勾配を利用した結晶成長方位の制御と機械的性質への影響」の研究のため	(機械システム系) 関 一郎	公益財団法人ウエスコ学術振興財団	450,000
浅野喜敬助教の「国際研究集会Trisection Workshop 2025 への参加・発表及び研究打合せ」の海外渡航費助成のため	(情報システム系) 浅野 喜敬	公益財団法人ウエスコ学術振興財団	300,000
プラズマ窒化を用いたオーステナイト系ステンレス鋼の水素脆化防止処理	(機械システム系) 半田 祥樹	一般社団法人日本鉄鋼協会	2,000,000
半田祥樹講師の「オーステナイト系ステンレス鋼パイプ内面へのプラズマ窒化処理のための環状のリブを有する電極のリブ形状および配置の数値計算による検討」に関する研究のため	(機械システム系) 半田 祥樹	公益財団法人イハラサイエンス中野記念財団	1,000,000
機械・制御システム工学専攻2年河部竜也の「口腔内装着型ウェアラブルデバイスによる非侵襲バイタルセンシング技術の構築」に関する研究助成のため	(機械・制御システム工学専攻2年) 河部 竜也	公益財団法人長岡技術科学大学技術開発教育研究振興会	200,000
教育活動及び課外活動の助成のため	学生課	津山工業高等専門学校後援会	1,700,000
教育支援（一般教養関連図書充実）	図書館	亀川 喜己雄（個人）	5,000,000
寮生の厚生福祉助成金（寺子屋）	寄宿舍	北辰寮後援会長	67,814
SNSを活用したコミュニケーション支援環境の構築事業の支援として	総務課	津山工業高等専門学校同窓会	200,000
津山工業高等専門学校における研究の奨励	テクノセンター	津山圏域工業会	100,000
細谷和範教授の「椿の落花挙動にヒントを得たIoTセンシングデバイス開発」に関する研究のため	(機械システム系) 細谷 和範	公益財団法人中国電力技術研究財団	500,000
津山高専技術交流プラザ会員企業と津山工業高等専門学校との連携促進のため	テクノセンター	津山高専技術交流プラザ	300,000
津山高専技術交流プラザ企業と津山工業高等専門学校との連携促進	テクノセンター	津山高専技術交流プラザ	56,000
津山高専技術交流プラザ会員企業の地域共同テクノセンター利用促進のため	テクノセンター	津山高専技術交流プラザ	474,750
合計 21件			20,198,564

6 研究助成

財 団	事業等の名称	テーマなど	所属	申請者	受入金額
日本高専学会	研究助成	高専留学生の活用によるキャンパスの国際化と実践的日本語教育の探求	海外展開促進	山田 朱美	250,000
(一社) 日本鉄鋼協会	研究助成	高校への出張授業等への補助事業	機械システム系	関 一郎	50,000
電気学会中国支部	研究助成	子供理科教室「電子回路を作製しよう」	電気電子システム系	西尾 公裕	30,000
合計 3件					330,000

7 補助金

事業名	(所 属) 研究担当者名	契約相手先	受入金額 (円)
津山高専文化部 (天文部) 支援事業	(先進科学系) 谷口 圭輔	津山市 (津山市大学・高等専門学校連携推進事業補助金)	100,000
画像処理による管路変状検出と敷設マーカーについて	(機械システム系) 細谷 和範	津山市 (津山市大学・高等専門学校連携推進事業補助金)	200,000
生産段取りの自動化に関する取り組み	(電気電子システム系) 湊原 哲也	津山市 (津山市大学・高等専門学校連携推進事業補助金)	400,000
GPS行動データを活用した津山市観光の活性化と地域資源の可視化	(情報システム系) 松島 由紀子	津山市 (津山市大学・高等専門学校連携推進事業補助金)	400,000
公開講座のオンライン公開	(先進科学系) 廣木 一 亮	津山市 (津山市大学・高等専門学校連携推進事業補助金)	400,000
学生の起業に向けた資質・能力の育成に係る事業の継続のため	(校長) 佐藤 貴哉	津山市 (スタートアップ事業支援金)	300,000
電気自動車の高効率化を実現する二重巻線同期電動機の駆動制御技術開発	(電気電子システム系) 中村 直人	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (官民による若手研究者発掘支援事業)	8,985,000
合計 7件			10,785,000

8 技術相談・機器利用

相 談 事 項	担当教職員氏名
ロボットアーム部品の制作依頼	(情報システム系) 寺元 貴幸
モルタル搬送用部品の設計について	(機械システム系) 細谷 和範
木質チップの動荷重による乾燥の可能性について	(機械システム系) 塩田 祐久
モルタル搬送用部品の設計に関するポンプスペックについて	(機械システム系) 細谷 和範
持運び可能な風呂の水温低下方法について	(機械システム系) 佐伯 文浩

相 談 事 項	担当教職員氏名
研磨加工用公営ジグの摩耗改善について	(機械システム系) 塩田 祐久 半田 祥樹
注射針の母材表面状態について	(機械システム系) 小西 大二郎
エンジニアへの講義について	(先進科学系) 廣木 一 亮
新規端子部品の表面粗さ測定	(技術部) 川村 純司
鳥獣処理機の菌床のCa調査	(技術部) 田口 理沙子
新規端子部品の表面粗さ測定	(技術部) 川村 純司
アルミ合金の元素分析	(技術部) 田口 理沙子
走査型電子顕微鏡による結晶生成の状況確認	(電気電子システム系・技術部) 中村 重之 瀬島 裕貴
金属線のSEM観察	(技術部) 瀬島 裕貴 田口 理沙子

9 公開講座

講座名	担当講師	実施日	対象者	受講者数
Dr. Stone ? 世界は何でできている?	(先進科学系) 廣木 一 亮	5月17日 (土)	小学4年生～ 中学3年生	18
臭い×臭いは良い香り?	(先進科学系) 廣木 一 亮	6月21日 (土)	小学4年生～ 中学3年生	20
色にまつわる化学の話	(先進科学系) 廣木 一 亮	10月18日 (土)	小学4年生～ 中学3年生	18
光かがやく金属	(先進科学系) 廣木 一 亮	11月15日 (土)	小学4年生～ 中学3年生	17
爆発の軌跡	(先進科学系) 廣木 一 亮	1月17日 (土)	小学4年生～ 中学3年生	18
タンパク質のはたらきを見てみよう! ①卵を用いて	(先進科学系) 高木 賢治	5月17日 (土)	小学4年生～ 中学3年生	8
タンパク質のはたらきを見てみよう! ②野菜を用いて	(先進科学系) 高木 賢治	10月18日 (土)	小学4年生～ 中学3年生	9
タンパク質のはたらきを見てみよう! ③果物を用いて	(先進科学系) 高木 賢治	12月6日 (土)	小学4年生～ 中学3年生	5
夏休み直前スペシャル 手作り望遠鏡で月を見よう	(先進科学系) 谷口 圭輔	7月7日 (月)	小学3年生～ 中学3年生	23
リトルビッツを用いて電気工作・プログラミングの基礎を学ぼう①	(電気電子システム系) 西尾 公裕	7月12日 (土)	小学4年生～ 6年生	10
リトルビッツを用いて電気工作・プログラミングの基礎を学ぼう②	(電気電子システム系) 西尾 公裕	11月29日 (土)	小学4年生～ 6年生	9
作ろう・飛ばそうモデルロケット	(機械システム系) 山田 貴史ほか	8月2日 (土)	小学1年生～ 中学3年生	10

講座名	担当講師	実施日	対象者	受講者数
電子オルゴールを作ろう①	(電気電子システム系) 西尾 公裕	8月2日 (土)	小学1年生～ 6年生	27
電子オルゴールを作ろう②	(電気電子システム系) 西尾 公裕	8月3日 (日)	小学1年生～ 6年生	30
LEDキラキラ点滅装置を作ろう①	(電気電子システム系) 西尾 公裕	8月2日 (土)	小学1年生～ 6年生	29
LEDキラキラ点滅装置を作ろう②	(電気電子システム系) 西尾 公裕	8月3日 (日)	小学1年生～ 6年生	28
イルミネーション地球儀を作ろう！	(技術部)	8月2日 (土)	小学4年生～ 6年生	9
タンパク質のはたらきを見てみよう！生物を用いて	(先進科学系) 高木 賢治	8月3日 (日)	小学4年生～ 中学3年生	8
親子でたのしくでんき工作	(情報システム系) 渡邊 朝美 ほか	8月3日 (日)	小学1年生～ 6年生	17
親子で楽しくコンピューターで絵をかこう	(情報システム系) 寺元 貴幸	8月3日 (日)	小学4年生～ 6年生	18
たたら製鉄公開実験 (座学)	(機械システム系) 関 一郎	12月6日 (土)	一般 (小学生以上)	22
たたら製鉄公開実験 (実演)	(機械システム系) 関 一郎	12月13日 (土)	一般 (小学生以上)	28
古代技術に親しむ	(機械システム系) 関 一郎	1月17日 (土)	一般 (小学生以上)	10

令和7年度津山高専技術交流プラザ事業報告

(期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日)

●津山高専技術交流プラザ（138社／R7年度新規入会8社 退会1社）

1. 総 会

会員企業や津山高専の先生方など、75名に参加いただいた。創立30周年記念事業となる学生表彰規程（産学連携研究賞）の創設、役員改選を含め、提案したすべての議案を承認いただいた。

開催日	内 容	参加	会場
5月21日	令和6年度事業報告及び決算報告、監査報告、学生表彰規程の創設（案） 令和7年度事業計画（案）及び予算案（案）、役員改選（案）	45社	ザ・シロヤマテラス 津山別邸



2. 産学交流の活性化

産学での情報交換や人脈形成を図ることを目的として、津山商工会議所、津山ステンレス・メタルクラスターとの共同開催により産学連携交流会を開催した。第1回は創立30周年記念として各業界で活躍されている津山高専の卒業生、第2回はDX推進の取り組みで成果を上げられている企業の役員をそれぞれ講師に招いた。

日時	内 容	参加	会場
10月28日	第1回産学連携交流会《高専プラザ創立30周年記念》 1. 津山高専技術交流プラザ30年のあゆみ 2. 講演1：津山高専での卒業研究や授業内容から繋がって、医工連携研究に基づく現在の事業化に至るまでの歩みとこれからの夢 講師：池田 誠一 氏 （ファインバイオメディカル有限会社 取締役） 3. 講演2：近年の生成AIによるロボット自動化の進展 講師：小津野 将 氏 （オムロンサイニックス株式会社） 4. 新入会員企業紹介 三井E&Sシステム技研株式会社 5. 情報交換会	54名	津山鶴山ホテル

日時	内 容	参加	会場
令和8年 2月13日	第2回産学連携交流会 1. 講演：失敗経験こそ最高の資産！ ～特許取得とDX支援ツールリリースを 成し遂げたultra soul～ 講師：白井 義人 氏 (西機電装株式会社 取締役管理部長) 2. 新入会員企業紹介 オサカダツール株式会社 3. 情報提供：技術を誇りに、知財を利益に。 ～津山の『匠の技』を次世代へつなぐ INPIT活用術～ 講師：駒井 浩介 氏 (INPIT岡山県知財総合支援窓口) 4. 情報交換会	46名	ザ・シロヤマテラス 津山別邸



3. 企業PR会

多くの会員企業に参加いただくため、2日間に分けて開催した。事前に学生がPDFデータを閲覧できるガイドブックを製作し、紙媒体の冊子を当日配布した。

また、津山高専、つやま産業支援センターの両コーディネーター等をコンシェルジュとして会場に配置し、学生からの相談対応や誘導を実施した。

日時	内 容	参加実績	会場
12月2・3日	津山高専の学生・教員等が会員企業の事業内容、製品、技術等を知ること、地域の企業に関心を持つとともに、産学交流を図ることを目的に開催	企業72社 参加者317名 (学生のみ)	津山工業高等 専門学校 第2体育館



4. 津山高専による会員企業訪問

会員企業と津山高専の教員が相互の理解と交流を深めることを目的として、岡山県北部2社、南部2社を訪問した。

日時	会 場	参 加
9月10日	関東化学株式会社 岡山工場 株式会社スターロイ	津山高専教職員6名 センター職員・コーディネーター4名
9月11日	エスタカヤ電子工業株式会社 株式会社江口電機	津山高専教職員5名 センター職員・コーディネーター4名



5. 学生の育成支援事業の実施

津山高専の学生が各分野の最先端の技術動向を知り、知識を深めるとともに、その技術が社会に及ぼす影響について学ぶことを目的として、会員企業によるボランティアレクチャーを開催した。

日時	内 容	参加	会場
6月30日	ボランティアレクチャー（第1回） 講師 株式会社トーカロイMTG 総務本部 濱野 浩二 氏 品質管理開発課 高須賀政哉 氏 みらい課 安藤 匡平 氏	学生40名	津山工業高等 専門学校
10月6日	ボランティアレクチャー（第2回） 講師 国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構 人形峠環境技術センター 副所長 松浦 幸夫 氏 保安管理課 迫田 晃弘 氏	学生41名	津山工業高等 専門学校
12月1日	ボランティアレクチャー（第3回） 講師 内山工業株式会社 赤坂研究所コアテクラボ 石田 浩規 氏 生産技術部 郷司 和孝 氏	学生40名	津山工業高等 専門学校



6. 研究内容発表会・施設紹介

津山高専と会員企業との交流をより一層深めるため、津山商工会議所との共同開催により、同校の研究内容発表会及び施設紹介を実施した。

開催日	内 容	参加	会場
12月23日	1. 研究内容発表 総合理工学科①先進科学系 守友 博紀 准教授 ②機械システム系 近本 彬 助教 ③電気電子システム系 沼 千智 助教 ④情報システム系 畑 良知 講師 2. 施設紹介 化学実験室、生物実験室の現地案内	8 社 13名	津山工業高等 専門学校



7. 出前講座の開催

津山高専とプラザ会員企業との交流を一層推進するため、出前講座の案内を実施した。(実績は8件)

8. 学生の会員企業訪問

つやまエリアオープンファクトリーのプレイベントとして、会員企業バスツアーを実施した。

日 時	会 場	参加
7月9日	I K O M A ロボテック株式会社	学生17名、教職員 2 名
	クリナップ株式会社 岡山工場	学生18名、教職員 3 名



9. 学生表彰（産学連携研究賞）

地域企業との共同・連携により、地域産業の発展または地域課題の解決に寄与する研究を行った津山高専の学生を表彰した。

日 時	受 賞 者	研 究 名	連携企業
3月13日	総合理工学科5年 機械システム系 木下 遥喜	ホローカソードCVDを用いた有機ポリマー基盤に対する表面SiO _x 薄膜の高速処理及び硬質化	株式会社旭ポリスライダー
	総合理工学科5年 情報システム系 小村 勇翔	カードタッチ型入退室管理プログラムの作成と実用化	株式会社デンソー勝山



10. 奨学寄附金

津山高専における研究の奨励金として、30万円を寄附した。

11. スタートアップ事業支援金

津山高専が令和5年度に文部科学省のスタートアップ教育環境整備事業を活用してスタートした、学生の起業に向けた資質・能力を育成する各種事業を継続させていくため、支援金30万円を拠出した。

※津山高専内テクノ工房にある3Dプリンターの維持管理に活用

12. 卒業研究・共同研究

高専プラザ会員企業からの提案を元に7件の卒業研究、7件の共同研究を実施した。（令和7年度実施研究）

13. その他

ザ・チャレンジ事業支援金として10万円を拠出し、つやまロボットコンテスト大会を支援した。

津山工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程

〔平成18年2月28日〕
規 程 第 1 5 号

改正 平成21年8月25日規程第31号 平成29年3月21日規程第24号
平成30年12月18日規程第18号 令和2年6月25日規程第16号
令和3年3月24日規程第16号 令和7年11月6日規程第20号

(趣 旨)

第1条 この規程は、津山工業高等専門学校内部組織規程（平成16年規程第6号）第10条第2項の規定に基づき、津山工業高等専門学校地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第2条 センターは、津山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育及び研究機能を地域社会に開放し、教育及び研究の発展に寄与するとともに、地域社会における産業技術の振興及び発展に貢献することを目的とする。

(業 務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 地域産業界等からの技術相談及び技術指導に関すること。
- (2) 地域産業界等との共同研究及び受託研究に関すること。
- (3) 本校の学生に対する実践的な技術教育及び研究指導に関すること。
- (4) 学術情報の提供に関すること。
- (5) 講習会等への人材派遣に関すること。
- (6) 公開講座に関すること。
- (7) 知的財産に関すること。
- (8) その他センターの目的達成に必要な業務に関すること。

(部 門)

第4条 センターに、施設、設備の管理・運営及び知的財産に関する審議を行うため、部門を置く。

2 部門に関し必要な事項は、別に定める。

(職 員)

第5条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長3人
- (3) 部門長
- (4) 部門員
- (5) その他校長が必要と認めた者

2 前項第1号及び第2号に掲げる職員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

3 第1項第3号及び第4号に掲げる職員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

4 前2項の規定にかかわらず、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター長及び副センター長)

第6条 センター長及び副センター長は、教員のうちから、校長が任命する。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

4 センター長に事故があるときは、あらかじめセンター長が指名した副センター長が、その職務を代行する。

(委員会)

第7条 センターに、センターの運営等に関する重要事項を審議するため、津山工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事 務)

第8条 センターの事務は、総務課が行う。

(雑 則)

第9条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成21年8月25日規程第31号）

この規程は、平成21年8月25日から施行し、平成21年8月1日から適用する。

附 則（平成29年3月21日規程第24号）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年12月18日規程第18号）

この規程は、平成30年12月18日から施行する。

附 則（令和2年6月25日規程第16号）

この規程は、令和2年6月25日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

附 則（令和3年3月24日規程第16号）

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和7年11月6日規程第20号）

この規程は、令和7年11月6日から施行する。

津山工業高等専門学校研究設備・機器及び地域共同テクノセンター利用要項

(趣 旨)

第1条 この要項は、文部科学省の「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」(令和4年3月)に則り、津山工業高等専門学校(以下「本校」という。)が保有する研究設備・機器の共用及び津山工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程(以下「センター規程」という。)第9条に基づき本校地域共同テクノセンター(以下「センター」という。)の利用について必要な事項を定めるものとする。

(共用の対象とする研究設備・機器)

第2条 共用の対象とする研究設備・機器は、一般的に購入が難しい高額な研究設備・機器を対象とするなど、多くの者に共用出来るような研究設備・機器を対象とする。また、主な使用者が退職する等により、使用されなくなった研究設備・機器の利活用に努めることとする。

(利用者)

第3条 研究設備・機器の共用及びセンターを利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 民間等の共同研究者
- (2) 技術相談等のための来訪者
- (3) テクノセンターで開催される行事等への参加者
- (4) 本校の職員、学生及び研究生等
- (5) その他テクノセンター長が適当であると認めた者

(利用手続き)

第4条 本校の研究設備・機器またはセンターの施設及び設備を利用しようとする者は、別紙様式1の利用申請書をセンター長に提出し、許可を得なければならない。

センター長は、申請を許可したときは、速やかに申請者に通知するものとし、申請者は本校が指定する期日までに使用料を納付しなければならない。

既納入の使用料等は、本校の責に帰すべき理由がある場合を除き、還付しない。

本校の研究設備・機器またはセンター利用後は、別紙様式2の利用報告書をセンター長に提出しなければならない。

ただし、本校教職員が、平日の勤務時間内に利用する場合は、利用申請書及び利用報告書の提出を省略することができる。

第5条 前条の許可を得て設備を利用した者は、センター備え付けの別紙 様式3の施設・設備使用簿に記録しなければならない。

(機器の搬入及び搬出)

第6条 利用者が、機器を搬入するときは、あらかじめセンター長の承認を受けなければならない。

2 前項の承認を受けた者が当該機器の利用を終了したときは、速やかにこれを搬出しなければならない。

3 機器の搬入及び搬出に要する経費は、当該利用者の負担とする。

(利用の取消等)

第7条 センター長は、利用者がこの要項に違反したとき、又は本校の運営に支障を生じさせるおそれがあるときは、その利用の許可を取り消し、又はその利用を停止させることができる。

(経費の負担)

第8条 利用者(本校の教職員、学生及び研究生等を除く。)は当該利用に係る経費を負担するものとする。ただし、本校の教職員、学生及び研究生等が1行事につき、3Dプリンターや大判プリンター等、消耗品を用いる機器については、別表に定める使用量を超える場合は原則、事前に費用負担について協議すること。

2 前項の経費及び負担方法は別に定める。

(損害賠償)

第9条 利用者が、故意又は重大な過失により設備等を損傷したときは、その損害に相当する費用を負担しなければならない。

(実績報告)

第10条 研究設備・機器の運用実績は、センター長から年1回校長へ報告する。

(その他)

第11条 この要項に定めるもののほか、センターの利用に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この要項は、平成18年4月1日から施行する。

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

この要項は、令和4年5月25日から施行する。

この要項は、令和6年4月1日から施行する。

この要項は、令和8年7月1日から施行する。

この要項は、令和8年7月15日から施行し、令和8年6月1日から適用する。

(別表)

機 器	単 位
樹脂3Dプリンター	造形物(モデル材) + サポート材 = 1,000cc以上
金属3Dプリンター	造形物 = 1,000 g 以上
大型プリンター	(大きさに関わらず) 10枚以上

地域共同テクノセンター長 殿

下記の通り申し込みます。

(申請者) 住 所 :
企業名等 :
役 職 :
氏 名 :
電 話 :
E m a i l :

記

津山高専技術 交流プラザ会員	☐ 会員 ☐ 非会員	利用区分	☐ 技術相談 ☐ 機器利用
技術相談（内容）			
機 器 利 用	☐ 3Dプリンター ☐ 3Dデジタイザー（スキャナー） ☐ 走査型電子顕微鏡 ☐ 精密万能試験機 ☐ 表面粗さ測定器 ☐ その他（ ）		
備 考			

次の事項について、ご確認の上、同意いただける場合は、☒をご記入願います

秘 密 保 持	☐	技術相談の経過において、担当教員よりノウハウ等の提供を受けた場合、秘密保持契約を締結することに同意する。※同意いただけない場合、技術相談を実施することができないことがあります。
知的財産の取扱い	☐	技術相談の経過又は結果、担当教員の寄与により知的財産が生じた場合、当校へ書面にて通知することに同意する。※同意いただけない場合、技術相談を実施することができないことがあります。

記入不要

決 定 事 項	テクノセンター利用の可否	利用料	テクノセンター長	研究推進係
	☐ 許可 ☐ 不許可	☐ 有料 (円) ☐ 無料		

テクノセンター利用報告書

地域共同テクノセンター長 殿

(報告者) 所 属 :
役 職 :
氏 名 :

下記の通り報告します。

記

利 用 日 時	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分		
利 用 者		津山高専技術 交流プラザ会員	☐ 会員 ☐ 非会員
技術相談 (内容)			
相 談 指 導 内 容			
	ノウハウ等の提供	☐ 有 ☐ 無	
	秘密情報の受領	☐ 有 ☐ 無	
	今 後 の 対 応	☐ 共同・受託研究 ☐ 技術指導 ☐ 無	
	知的財産の創出	☐ 有※詳細は別添発明等届のとおり (☐ 発明 ☐ 考案 ☐ 意匠 ☐ ノウハウ ☐ その他) ☐ 今後創出する可能性が有 ☐ 無	
機 器 利 用	☐ 3Dプリンター ☐ 3Dデジタイザー (スキャナー) ☐ 走査型電子顕微鏡 ☐ 精密万能試験機 ☐ 表面粗さ測定器 ☐ その他 ()		

----- 記入不要 -----

確 認 欄	利 用 料	☐ 有料 (円) ☐ 無料
	秘 密 保 持 契 約	☐ 締結済み ☐ 後日締結が必要 ☐ 締結は不要
	発 明 等 の 取 扱	☐ 知的財産委員会への相談
	今 後 の 対 応	☐ 共同・受託研究 ☐ 技術指導 ☐ 相談継続 ☐ 無 (完了)

テクノセンター長	研究推進係

施設・設備利用簿

利用施設

利用設備

津山工業高等専門学校地域共同テクノセンター

利用期日		利用者		利用者 数計	利 用 概 要	指導または対応 教職員氏名	連絡事項・特記事項等
年 月 日	開始時刻	終了時刻	所 属 (企業、学科、研究室等)	氏 名			
・ ・	：	：					
・ ・	：	：					
・ ・	：	：					
・ ・	：	：					
・ ・	：	：					
・ ・	：	：					
・ ・	：	：					
・ ・	：	：					
・ ・	：	：					
・ ・	：	：					
・ ・	：	：					

津山工業高等専門学校地域共同テクノセンター利用料算定基準

校長裁定

制定 平成27年3月30日
改正 令和元年12月2日
改正 令和4年6月1日
改正 令和5年3月23日
改正 令和5年12月12日
改正 令和6年3月19日
改正 令和8年7月15日

(目 的)

第1条 この利用料算定基準は、津山工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程第9条、津山工業高等専門学校地域共同テクノセンター利用要項第8条第2項、文部科学省の「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」(令和4年3月)及び独立行政法人国立高等専門学校機構技術相談に関するガイドラインに基づき、津山工業高等専門学校地域共同テクノセンター利用料(以下「利用料」という。)について必要な事項を定めるものとする。

(利用料)

第2条 利用者は、テクノセンター利用申請書に基づき別表により算出される額を支払期限までに支払うものとする。ただし、法令等に定めのある場合は、当該法令等に定める額とする。

2 利用料は、消費税額及び地方消費税額を加算した額とする。

(利用料の減免措置)

第3条 利用料は、次の一に該当する場合減免できるものとする。

一 公的機関からの申込の場合、公的機関の規程等によるものとする。

二 利用者が申込時において、共同研究等の申請を前提とする旨の意思表示をした場合、利用料金の半額を減額するものとする。

三 津山高専技術交流プラザ会員(以下「会員」という。)の場合、1年間につき技術相談及び機器利用(3Dプリンターの材料費、作業費を含む)に係る利用料の3時間相当分は無料とする。非会員の場合は1年間につき技術相談及び機器利用(3Dプリンターの材料費、作業費を含む)に係る利用料の1時間相当分は無料とする。

四 その他、上記に準じるものと校長が認めた場合。

(利用料の納付方法)

第4条 利用者は、第2条の利用料を、法令等に定めのある場合を除き、総務課が発行する請求書に明記されている金額を指定された期日までに銀行振込により納付するものとする。

附 則

この基準は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この基準は、令和元年10月1日から施行する。

附 則

この基準は、令和4年6月1日から施行する。

附 則

この基準は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この基準は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

この基準は、令和8年7月15日から施行し、令和8年6月1日から適用する。

別 表

利 用 区 分	単 位	利用料(税込み)
技術相談(会員は1年間につき3時間分は無料。非会員は1年間につき最初の1時間分は無料)	30分	2,750円
樹脂3Dプリンター ①モデル材の容積(cc)@100円+サポート材の容積(cc)@100円 ②作業費 1回あたり9,900円	1 回	9,900円～
金属3Dプリンター ①材料費(造形物の重量(g))×@20円 ②作業費 1回あたり12,100円	1 回	12,100円～
3Dスキャナ型三次元測定機(キーエンス VL-700)	30分	2,750円
3Dデジタイザー(スキャナー)(GMO ATOSⅢ Triple Scan)	30分	2,750円
走査型電子顕微鏡(日本電子 JSM-IT800SHL)	30分	3,300円
走査型電子顕微鏡(日本電子 JSM-6510LA)	30分	2,750円
精密万能試験機	30分	2,750円
表面粗さ測定器	30分	2,750円
上記以外の機器	30分	2,750円

(注)・利用時間が30分に満たない場合は、30分利用したものとして料金を算定する。

・技術相談を利用者の指定する場所で行った場合、要した旅費を利用料に加算して算定する。

・別表に定める上記以外の機器を利用する場合の利用料を算定した場合に、別表に定める利用料と社会通念上著しい乖離があると認められる場合は、校長が別に定める。

◎津山高専技術交流プラザ会員企業の 地域共同テクノセンターの利用について

津山高専技術交流プラザ会員企業は下記利用料の減免措置があります。

(利用料の減免措置)

津山高専技術交流プラザ会員企業が技術相談及び機器利用する場合、3時間分は無料とします。ただし、3Dプリンターの利用に関しては、技術相談及び機器利用する3時間相当分を減額します。

津山高専プラザについての詳しい説明については以下のサイト（外部リンク）をご覧ください。

<https://tsuyama-biz.jp/kousenplaza/>

また、津山高専プラザの会員企業一覧については以下のとおりです。

令和8年5月13日現在

No.	企 業 名	代表者役職	代表者氏名
1	(株)英田エンジニアリング	代表取締役	万殿 貴志
2	(株)アイダメカシステム	代表取締役	丸山 隆行
3	(株)アイテック・ツリタニ	代表取締役	釣谷 育宏
4	アサゴエ工業(株)	代表取締役社長	藤原 宏嗣
5	(株)ASAHI FORGE 真庭工場	取締役工場長	朝日 克次
6	(株)旭ポリスライダー	管理部長	實村 隆明
7	アジア工業(株)	代表取締役	片山 尚一
8	アスクラボ(株)	代表取締役	川嶋慎太郎
9	アズビル(株)	取締役代表執行役社長	山本 清博
10	アロイ工業(株)	代表取締役	下井谷絹子
11	(株)栗倉電機製作所	代表取締役	森安 太
12	イーグル工業(株) AI・CI事業部	AI・CI事業部長	嶋田 雅英
13	池田精工(株)	代表取締役	池田 英雄
14	IKOMAロボテック(株)	代表取締役	生駒 徹志
15	(株)アイデアス	代表取締役	三宅 誠治
16	院庄林業(株)	代表取締役	武本 哲郎
17	浮田建設(株)	代表取締役	浮田 匡俊
18	内山工業(株)	代表取締役	内山 兼三

No.	企 業 名	代表者役職	代表者氏名
19	エース設計産業(株) 津山事業所	所長	澤 崇靖
20	エイ・テイ・シイ(株)	代表取締役	青山 路彦
21	(株)エイワイテック 津山オフィス	専務取締役	野田 誠
22	(株)エクセディ精密	代表取締役社長	田中 俊幸
23	(株)江口電機	代表取締役社長	和田 務
24	エコシステム山陽(株)	管理部長	今元 徹
25	エスタカヤ電子工業(株)	代表取締役	柚木 太志
26	(株)エステック	代表取締役	久保 忠司
27	(株)エヌエスシイ 岡山工場	代表取締役	西村 康宏
28	(有)エヌティ・クリエイト	代表取締役	西田 和英
29	(株)MGH	代表取締役社長	永山久一郎
30	(株)オーエスケー	代表取締役	稲井 裕久
31	オーエヌ工業(株)	代表取締役社長	中村 政弘
32	オーティス(株)	代表取締役社長	角本 康司
33	大石金属工業(株) 岡山工場	代表取締役社長	大石 嘉久
34	大阪電具(株) 岡山第二工場	代表取締役	山本 朱紀
35	オカネツ工業(株)	代表取締役	和田 俊博
36	岡山コンクリート工業(株)	代表取締役	永山 修
37	(株)岡山村田製作所	管理部 部長	柳生 隆明
38	オサカダツール(株)	代表取締役	牧 明奈
39	(株)小野製作所	代表取締役社長	小野 達也
40	尾浜プレス(株)	代表取締役	川村 太二
41	片山工業(株)	代表取締役	片山 昌之
42	(株)ガット	代表取締役	美甘 信吉
43	カバヤ食品(株)	代表取締役社長	穴井 哲郎
44	(株)カヨーメカニカル	代表取締役	小虎 修一
45	関東化学(株) 岡山工場	工場長	鈴木 一雄
46	共和機械(株)	代表取締役	友末 琢磨

No.	企 業 名	代表者役職	代表者氏名
47	協和ファインテック(株)	代表取締役	橋本 宗幸
48	クリナップ(株) 岡山工場	工場長	新妻 澄寿
49	コアテック(株) 阿曾工場	代表取締役	藤井 茂
50	(有)巧伸製作所	代表取締役	林 靖太郎
51	晃立工業(株)	代表取締役	福廣 匡倫
52	(株)興和製作所 岡山工場	代表取締役	福島 直樹
53	(株)コニック 岡山工場	代表取締役	大川 雅子
54	(株)ゴフェルテック	代表取締役社長	庄司 正巳
55	坂本工業(株)	代表取締役	坂本 幸一
56	(株)三社電機製作所 岡山工場	半導体事業本部製造担当副本部長	岸本 博明
57	山陽ロード工業(株)	代表取締役	秋田 英次
58	サンライズ(株)	工場長	光原 誠治
59	三和電子(株)	代表取締役	児嶋 一登
60	(株)ショウエイ	代表取締役	辻井 修一
61	JOHNAN(株) 津山工場	代表取締役社長 兼 CEO	山本 光世
62	(株)ショウワコーポレーション	代表取締役	有元 稔
63	新晃工業(株) 岡山工場	取締役専務執行役員 生産本部長	谷口 武則
64	(株)新興製作所	代表取締役	梶井 謙臣
65	進興電気製造(株) 岡山工場	代表取締役	小泉 二郎
66	(株)すえ木工	代表取締役	須江 健治
67	(株)スターロイ	代表取締役社長	本並 義弘
68	(株)セキサン	代表取締役	荻田 裕也
69	摂津金属工業(株) 美作工場	工場長	緒方 聰
70	セリオ(株)	代表取締役社長	本郷 旬
71	(株)ソフィア	代表取締役	全本 静弘
72	大松精機(株)	代表取締役	松永 光弘
73	大日化成(株) 岡山工場	代表取締役	小林 直樹
74	タツモ(株)	代表取締役社長	佐藤 泰之

No.	企 業 名	代表者役職	代表者氏名
75	(株)椿本チエイン 岡山工場	執行役員 工場長	荒木 和彦
76	津山ガス(株)	取締役社長	荏田 善嗣
77	津山信用金庫	理事長	松岡 裕司
78	デジタル総合印刷(株)	代表取締役	河内 克之
79	(株)テルミックス	代表取締役社長	沼田 俊介
80	(株)デンソー勝山	代表取締役	石原 佳樹
81	(株)トーカロイMTG	代表取締役社長	松本 秀彦
82	トーステ(株) サニタリー生産本部	専務取締役サニタリー生産本部長	竹内 豊明
83	東部電子工業(株)	代表取締役	安東 大輔
84	ときわ製作所(株)	代表取締役	永山久一郎
85	トリツ機工(株)	代表取締役	鳥津 実
86	内外電機(株) 津山工場	工場長	岡本 典祥
87	(株)ナカモト	代表取締役	久常 敦之
88	中山石灰工業(株)	代表取締役	中山 尚啓
89	(株)ナテック	代表取締役	西江 健治
90	(株)新高製作所	代表取締役社長	吉谷 忠久
91	西尾レントオール(株) 東中国営業部	取締役	田中 浩二
92	日本圧着端子製造(株)院庄生産技術センター	課長	浦谷 満
93	日本キャリア(株) 津山事業所	事業所長	佐野 勝祥
94	(国研)日本原子力研究開発機構 人形峠環境技術センター	所長	中野 貴文
95	日本ゴア (同)	代表取締役	スティーブン・バルド
96	日本植生(株)	代表取締役	柴田 明典
97	ネオケミカル(株) 岡山工場	代表取締役	中平 貴年
98	ノーテープ工業(株)	取締役 工場長	西城 弘
99	(株)野田テック 岡山工場	代表取締役	野田 雄之
100	ノバフォーム(株) 岡山工場	取締役生産技術本部長兼岡山工場長	松井 裕次
101	萩原工業(株)	特命役員	笹原 義博
102	ハリキ精工(株) 岡山工場	工場長	津々日博仁

No.	企 業 名	代表者役職	代表者氏名
103	(株)ハル技術研究所	代表取締役	万代 晴夫
104	(株)BOD商会	代表取締役	高原 正樹
105	(株)P・Sヒロハマ 勝央工場	代表取締役	瀧川 孝
106	備商(株)	代表取締役	上野 雅史
107	(有)ファインアートかわばた	代表取締役	牛垣 和弘
108	(株)フェクト	代表取締役	安田 海人
109	フェニテックセミコンダクター(株)	代表取締役社長	石井 弘幸
110	フクシマガリレイ(株) 岡山工場	工場長	高谷 収三
111	(株)藤岡エンジニアリング	代表取締役	藤岡 譲
112	フジコピアン(株) 岡山工場	上席執行役員	安藤 憲彦
113	富士端子工業(株) 作東工場	代表取締役	本郷 万
114	(株)フジックス	代表取締役	橋本 修
115	(株)フジワラテクノアート	代表取締役	藤原 恵子
116	(株)フロロコート	事業部長	坪井 豊和
117	(株)paintory	代表取締役	片山 裕太
118	(有)マキシシステム	代表取締役	牧 幹程
119	(株)マルイ	代表取締役	松田 欣也
120	(株)水エコプラザ津山	代表取締役	佐野 淳
121	(株)三井E&S	代表取締役社長CEO	高橋 岳之
122	三井E&Sシステム技研(株)	代表取締役社長	三澤 啓二
123	(株)光岡製作所	代表取締役	光岡 宏文
124	ミック工業(株)	代表取締役	正木 心平
125	三橋サンブリッジ(株)	代表取締役	三橋 一輝
126	三乗工業(株)	代表取締役社長	眞田 達也
127	銘建工業(株)	代表取締役	中島浩一郎
128	(株)メイト	代表取締役	赤岩 修次
129	明和化学工業(株)	代表取締役	福井 雄亮
130	メタウォーター(株) 岡山営業所	人材開発部長	吉田 武士

No.	企 業 名	代表者役職	代表者氏名
131	モランボンプロダクツ(株) 津山工場	工場長	島田 伸夫
132	モリマシナリー(株)	代表取締役	森 郁夫
133	(株)山田養蜂場 本社	代表取締役社長	山田 英生
134	ユニカス工業(株)	代表取締役社長	吉田 司
135	ライト電業(株) 津山営業所	津山営業所 所長	内田 昌宏
136	(株)RELATION	代表取締役	鷹取 貞次
137	レプタイル(株)	代表取締役	丸尾 宜史
138	レンゴー(株)岡山工場	人事部長	足立嘉寿代
139	(株)ワードシステム	代表取締役	全本 和由
140	(株)脇木工	代表取締役	脇 優太

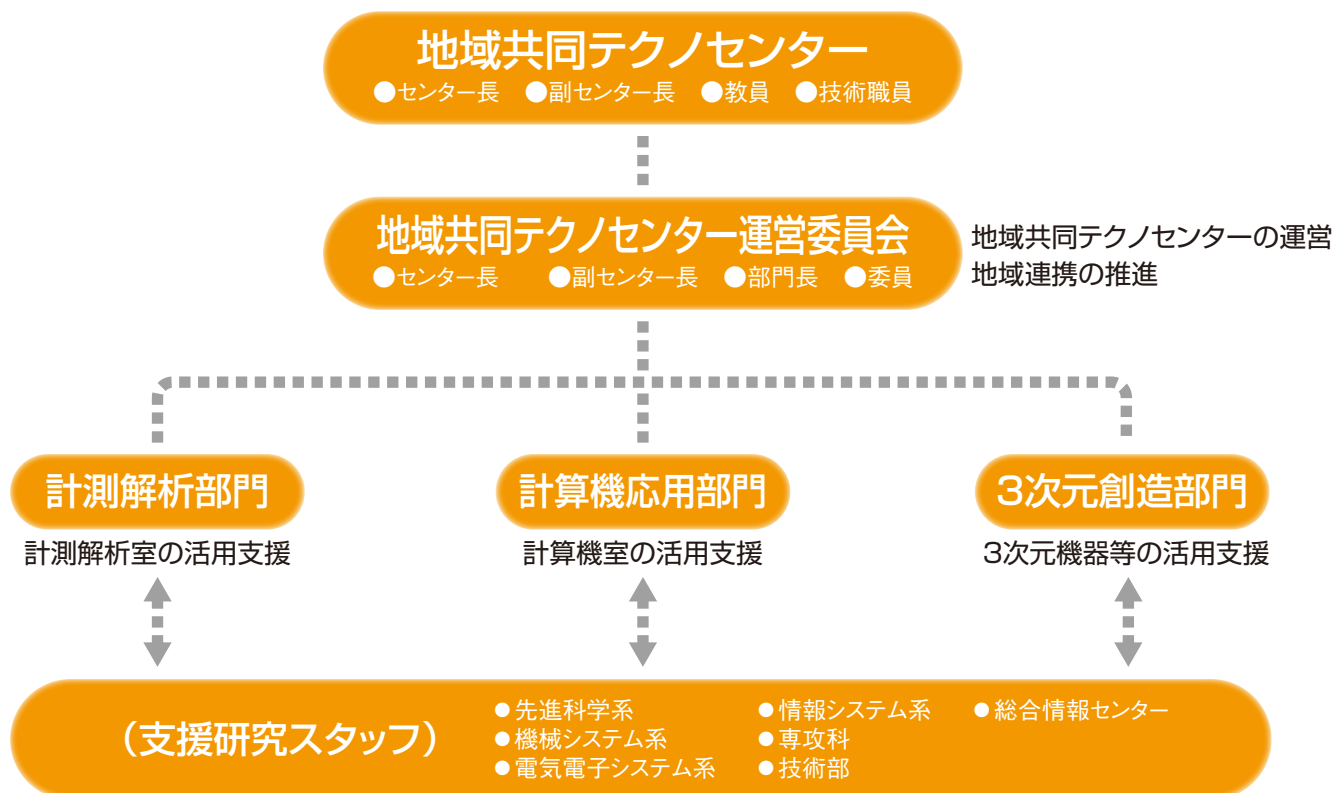
地域共同テクノセンターのスタッフ

テクノセンター長 副センター長 〃 〃	井上	浩行（機械システム系）
	谷口	圭輔（先進科学系）
	山本	綱之（電気電子システム系）
	川波	弘道（情報システム系）
計測解析部門	部門長	香取 重尊（電気電子システム系）
	部門員	塩田 祐久（機械システム系）
	〃	関 一郎（機械システム系）
	〃	河原 みほ（技術部）
	〃	瀬島 裕貴（技術部）
計算機応用部門	部門長	川波 弘道（情報システム系）
	部門員	中村 直人（電気電子システム系）
	〃	大西 淳（情報システム系）
3次元創造部門	部門長	寺元 貴幸（情報システム系）
	部門員	井上 浩行（機械システム系）
	〃	小林 るみ（技術部）
	〃	三木 勝（技術部）
総務課		土屋 信雄（総務課課長補佐）
		小林 尚通（総務課研究推進係長）
		山本 優夏（総務課一般職員）
		植月 唯夫（産学官連携コーディネーター）

地域共同テクノセンター運営委員会委員

井上	浩行（機械システム系）
谷口	圭輔（先進科学系）
山本	綱之（電気電子システム系）
川波	弘道（情報システム系）
香取	重尊（電気電子システム系）
寺元	貴幸（情報システム系）
栗井	貴子（先進科学系）
塩田	祐久（機械システム系）
大西	淳（情報システム系）
西田	範浩（事務部長）
清水	大輝（技術部）

地域共同テクノセンター組織図



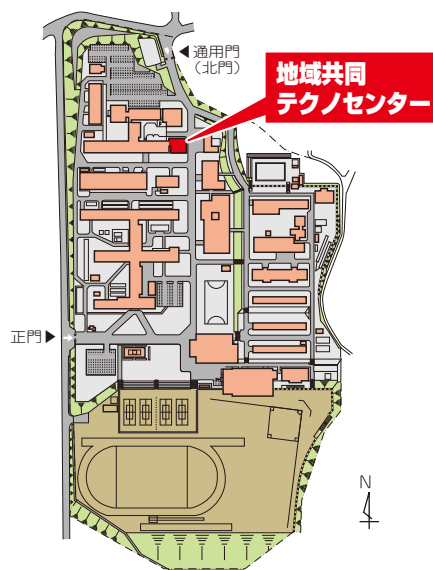
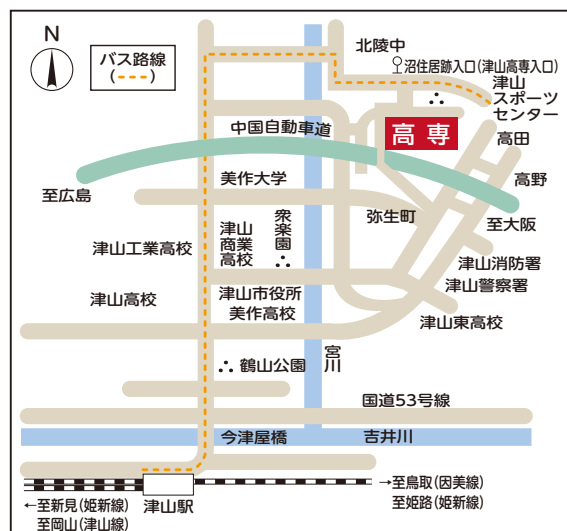
地域共同テクノセンターの利用

地域共同テクノセンターの利用、共同研究の申請、技術相談の申し込み、その他産学官民連携に関することは、下記にお問い合わせ下さい。

案内図

利用交通機関

- 岡山駅から
JR津山線で「津山駅」下車
(所要時間、快速 1時間10分)
- 津山駅から
「津山スポーツセンター行」の
バスで「沼住居跡入口」下車
(所要時間、約25分)
- 津山駅からタクシーで約15分



津山工業高等専門学校 地域共同テクノセンター (総務課研究推進係)

〒708-8509 岡山県津山市沼624-1 Tel:(0868)24-8217 Fax:(0868)24-8219

〈ホームページ〉 <https://www.tsuyama-ct.ac.jp/honkou/shisetsu/chiiki.htm>

〈eメール〉 kenkyu@tsuyama-ct.ac.jp